令和４年度地域部活動推進事業

Ⅰ　休日の部活動の段階的な地域移行に関する実践研究	高岡市教育委員会

●現状・課題

【現状】
・令和４年度現在、11 校の中学校と１校の義務教育学校の計 12 校を設置している。ほとんどの中学校において、長期にわたって生徒数の減少が続いており、学校の小規模化、教員数の減少、設置部活動数の減少傾向にある。10 年間で中学校の生徒数は約 800 人減少し、4 分の 3 の規模となっている。
・「高岡市地域部活動移行推進委員会」を設立し、部活動の地域移行の在り方等について協議を進めることで、地域や各競技団体等の本事業に対する理解が深まってきている。
【課題】
・活動場所を確保すること難しい。また学校施設を複数の競技が利用する際、調整が必要である。
・生徒や保護者の参加費負担が増える。
・活動場所が遠方である場合や、また公共交通機関によるアクセスが十分でない場合、活動に参加できない生徒がいる。
・指導者が足りない。また、指導者の確保が難しい。
・指導者に対する研修が必要である。
・競技によっては、休日の地域部活動の練習会を計画することが難しい場合がある。
・生徒や保護者、教員に対する地域部活動の趣旨の周知が不足している。

●実践研究校・競技

高岡市内全中学校・義務教育学校（推進校：高岡西部中学校）

●実践内容

■高岡市地域スポーツクラブの実施（市内一斉展開型）
＜高岡西部中学校を推進校＞
野球、バドミントン、バレーボール、ソフトテニス 陸上競技、バスケット、 サッカー、卓球、水泳、ハンドボール、剣道、柔道、 相撲、ソフトボール
（実施回数：年12回程度）【５月～２月】※競技ごとに計画、立案
ア　月１回×12ヶ月　イ　月２回×６ヶ月（９月～２月）ウ月１回×６ヶ月＋祝日
※１４競技中１０競技で実施、市内中学生４４５名が参加。（令和４年１２月末現在）
■高岡市地域部活動移行推進委員会（年３回）の開催
・高岡市地域スポーツクラブの成果と課題を協議する。

●参加者の声

【生徒】
・多くの人と色々な活動ができて楽しかった、技術が向上した。
・普段は一緒に練習できないほかの学校の人たちと一緒に練習できてうれしかった。
・上達することによる達成感や、運動による体力向上を図れた。
・この一年間で自分の成長を感じられた。
【教師】
・学校では教えてもらえないことやたくさんの時間活動することができる。
・未経験者が経験を積むことができて助かった。
・従来の部活動の時間は１時間しかなく、活動時間の確保ができてよかった。
・他の地域の生徒から刺激を受けた。
【指導者】
・保護者、生徒、地域からの理解が浸透してきた。
・参加人数が増加しており、一定のニーズがあると感じられる。
・平日の部活動よりも練習時間をたくさん確保でき、有意義であった。
・昇級審査試験等に成果がみられた。参加している生徒の合格率が高かった。
・該当の部活動がない学校からも参加生徒がいた。生徒のニーズに応じることができた。
・複数の指導者で生徒のレベルに応じた指導を行っているので、一定の成果を上げている。

●成果

【生徒】
・専門的な指導者からの指導を受けることで、競技に対する興味・関心が高まった。
・当該部活動がない学校の生徒、部員が少ない学校の生徒にとって、充実した練習ができる。また、他校の生徒と活動することがよい刺激となる。
【教員】
・休日の部活動の回数が少なくなり、休日出勤の回数が減った。

●課題

・活動場所を確保すること難しい。また学校施設を複数の競技が利用する際、調整が必要である。
・生徒や保護者の参加費負担が増える。
・活動場所が遠方、また公共交通機関も十分ではないため、参加できない生徒がいる。
・指導者が足りない。また、指導者の確保が難しい。
・指導者に対する研修が必要である。
・競技によっては、休日の地域部活動の練習会を計画することが難しい。
・生徒や保護者、教員に対する地域部活動の趣旨の周知が不足している。

●課題解決に向けて

・学校と競技団体との調整を図るため、運動部活動の１５競技において、市中学校体育連盟の中から、地域部活動コーディネーター（教員）を選出した。現在令和５年度の活動に向け、コーディネーターが中心となり、学校施設利用の調整や、各学校の顧問への周知（顧問会議の実施）等を行っている。
・各学校の、部活動主任の会合を開いた。運動部部会と吹奏楽部会に分かれ、これまでの取組と今後の予定を確認するとともに、中学校教員が疑問に思っていることや、不安に思っていることなどを話し合った。
・地域スポーツクラブ指導者の研修会を実施した。パワハラやセクハラなどについて、チェックリストをもとに研修を行った。また指導者が、不安に思っていることや困っていることなどを聞く機会にもなった。

●今後の課題と対応

【関係者との連絡調整・連携体制の構築方策】
・高岡市地域部活動移行推進委員会の事務局が、関係団体と連絡調整を行う。
・競技ごとに、地域部活動コーディネーター（教員）を選出し、競技団体と学校との連絡調整を行う。

【受け皿団体の確保方策】
・地域のプロスポーツ企業等と連携し、指導者の派遣や生徒対象の練習会、指導者の資質向上の研修会を行う。

【指導者の確保方策】
・体育協会、競技団体等と引き続き連携し、指導者を確保する。
・教員アンケートを基に、兼職兼業による指導を希望する教員を把握し、指導者の確保に努める。

【困窮世帯への支援方策】
・保護者負担経費の調査（学校部活動の活動経費との比較）や困窮世帯への支援の在り方の研究を行う。